

國民國際軍事裁判所

亞木利加合衆國其他

荒不貞夫其他

宣誓供述書

供証者

照谷

壽

郎

右者我國ニ行ハルル方式ニ從ヒルツ別紙ノ通り宣誓ヲ爲ンタル上辯護人
直野約一郎ノ問ニ對シ左ノ如ク答ヘタリ

問

答

問

答

貴方ハ昭和十三年八月二十五日乃至二十九日ニ内務省ニ於テ陸軍省ノ佐藤新聞班長ガ警察部長會議ノ席上講演シタコトヲ承知シテ居リマスカ。

知ツテ居リマス。内務省デハ地方長官其ノ他警察部長會同ナドノアル際ニハ時ノ重ク問題ニ付キ各方面ノ人々ノ講演ヲ依頼スルコトガ屢々アリマシタ。

ソコデ内務省警保局デハ警察部長會議ノ機會ニ文部亭變ニ開スル真相ヲ傳ヘテ警察部長ガ風説ヲ一掃スル爲メノ参考ニ資スヘク陸軍省新聞班長、佐藤大佐ニ講演ヲ依頼シタモノト思ヒマス。

貴方ハ此ノ文書へ法廷證二七〇又ハ二二三五號一ヲ作成シマシタカ、若シサウトスレバ此ノ文書ノ作成特ニ其ノ正確サニ付キ述ベテ下サイ。

私ハ全然速記ノ技術ヲ有セズ前記會期中二回ニ亘リ講演サレタト記憶シマスガ、右二回ノ講演ハ必ズシモ内容ガ一致シテ居ナカツ

タヤニ思ヒマス。講演後整理シテ亂暴ニ書イタ原稿約百枚位ノモノ
 ラ五、六十枚位ニ纏メタモノデハナイカト思ヒマス。
 何分佐原氏ノ講演ハ速度ガ早カッタノデメモヲ取ルコトハ甚ダ困難
 デアツタコトヲ記憶シテ居マス。又本文書ハ佐原氏ノ校閲ヲ經タモ
 ノデハアリマセンカラ或ハ佐原氏ノ講演ト多少ハ完全ニ一致シナイ
 點ガアツタチレテ本文書ノ冒頭ニ「文實記者ニ在ル」旨ヲ記述シ
 タノダト當時ノ記憶ヲ辿ル次第デアリマス。

昭和二十三年（一九四八年）一月二十二日 於東京

供：逕 者 照 谷 壽 郎

右ハ、等立會人ノ面詰ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日 於

立 証
會 同
人 者
直 野 豹 一 郎

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ祕セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ
誓フ

眞
誓
書

若名 源 郎
谷 壽 郎

4